

繋 谷地南部っ子

令和6年度 学校便り
R6. 11. 14
NO 17
校長 秋場 一憲

経営キーワード「一步踏み出す力（主体性）」「チーム力（協働・対話）」「考え抜く力（解決・創造）」

読書を通して、心を育む・・・

～ 11月は、読書強調月間 ～

11月を読書強調月間とし、学校全体で子供たちの心を育む取組みを推進しています。例えば、各学年ごとに朝の時間や給食の待ち時間に読書を取り入れること、各学年の本の貸し出し状況から人気の本を紹介すること、児童会学芸委員会の子供たちが本に関するクイズを作り放送したり掲示したりすることなどです。そのほかに、2名の地域講師による朝の読み聞かせ活動や、昔語りの会とひまわりサークルの皆様方による移動お話会など、外部の方々のお力もお借りしながら本に親しむ機会を多く設定し、子供たちの心を育むよう取り組んでいます。

「読書の秋」だからこそ、ぜひ各ご家庭でも親子で「お気に入りの1冊」を見つけてはいかがでしょうか。



図書室前の掲示・展示

「本物の音楽」に触れた幸せな時間

演奏に聴き惚れる



11月5日（火）に、町教育委員会のご配慮で「堀米ゆず子スクールコンサート」を体育館にて行いました。

世界レベルのバイオリン・チェロ・ピアノの素晴らしい演奏はもちろん、楽器の仕組みや魅力なども丁寧に教えていただき、子供たちは、手でリズムをとったり指揮者の真似をしたりしながら笑顔で鑑賞しました。

目の前で演奏する方々の表情や手の動きなども含めた「本物の音楽」に触れ、幸せな時間を過ごすことができました。

青パトによる自主防犯パトロールを実施します！！

南部地区青少年育成町民会議による自主防犯パトロールを実施するにあたり、この度、青色回転灯の装備を県警察本部に申請し認可が下りました。

会長である布川さんと評議員の山田さんの自家用車を「青パト」とし、今後、積極的に防犯パトロールを行っていただきます。不審者事案や強盗等の犯罪が発生している中、注意喚起と未然防止のため、大変心強い体制が整いました。

本当にありがとうございます。



青パトを前に、校長・布川さん・山田さん

若手教職員と共に成長する ～ 第3弾 ～

「若手教職員と共に成長する・若手教職員紹介」シリーズ第3弾の今号では、伊藤駿央 教諭を紹介します。本校5年目となる今年度は、6年担任のほかに体育主任、学校研究研修担当を担っていただいています。

— 伊藤駿央 教諭：児童尊重の態度と研修意欲の高さが魅力 —

伊藤駿央 教諭が授業や各教育活動で指導している場面を見ると、「～しなさい。」などの言葉ではなく、「私は～思うけれど、どうですか？」と子供たちに投げかけ、考えさせることが多いと思います。それは、子供たち一人ひとりを尊重し大切に考え、そして自己選択・決定を促しながら自立心を育むことに繋がっています。

過日の南小祭に向けて6年生が劇を創り上げる過程でも、子供たちは自分たちで台詞や動きを考え、道具等を準備し、自分事として生き生きと活動していました。6年生の成長をととても嬉しく頼もしく思っています。



子供に寄り添い、支援する

【伊藤 教諭にインタビュー】

Q 教員を志した理由は？

A 小学6年時の担任に憧れを持ったからです。(一緒にサッカーをしたこと、代表委員の時に優しくされたこと)

Q 谷地南部っ子の良さは？

A インクルーシブで心が広い子ども達であふれているように感じます。

Q 今後がんばりたいことは？

A 研究便りや学年通信をたくさん出そうと思っています。(後輩へのメッセージ、保護者の方々との情報共有)

Q これから教員を志す後輩に伝えたい教員の魅力ややり甲斐は？

A 学習指導要領に沿った中で、自分の意志や自由裁量で仕事ができます。何よりも、これからの未来を担う子ども達の成長の一助になれることは、魅力的なことだと思います。



運動会準備の指導場面

体育主任として、運動会や水泳学習発表会、持久走記録会などを企画立案し、コロナ禍で低下した子供たちの体力・走力・運動能力向上のため尽力いただいています。

また、学校研究研修担当として、自主的にお便りを発行しています。内容を読むと、法令や授業づくりなど若手教職員に身に付けさせたいものばかりです。自身の成長だけでなく、本校に20～30代の教職員が多いという実情を踏まえ「全員で成長していきたい、そして、そのリーダー的役割を果たしたい。」という強い意志を感じ、大変嬉しく思っています。(校長)

第4回校内授業研究会で確認したこと・今後活かしていきたいこと

伊藤教諭が、算数科の授業を提案しました。これまで学習した面積の求め方をもとに、葉っぱのような形をした複雑な図形の面積を求めることがねらいでした。学校教育目標「しなやかさ」に繋げるため、敢えて難解な問題に挑戦させました。村山教育事務所・河北町教育委員会指導主事より、

◆図形の見方・考え方を低学年から系統立てて指導する。

◆児童のつまづき等を予想し支援の手立てを考え、適切に支援する。

などのご指導をいただきました。児童一人ひとりの見取りとそれに応じた指導・支援はとても大切です。

今後も各教科で、学年の系統性も意識しながら授業改善を続けていきたいと思えます。



考え方や答えを交流